

日坂小学校・東山口小学校統合準備委員会（第 1 回総務部会） 協議録

日時	令和 7 年 6 月 26 日 (木) 19:00～20:50
場所	東山口地域生涯学習センター
出席者	委員 18 名 事務局 学校再編室長、学校再編係長、学校再編係主任、学校再編係事務員
内容	
■：委員会での検討内容	
1 開 会	
2 あいさつ（学校再編室長）	■ この統合準備委員会は、昨年 9 月に日坂・東山地区の皆様より市長と教育長宛に提出された「日坂小学校の今後のあり方に関する要望書」の中で、東山口小学校との統合を希望されたことを受けて組織された。 ■ 6 月 28 日の全体会では、統合時期を令和 9 年 4 月とする案が出された。統合時期は、今月 30 日の教育委員会定例会で正式に決定される予定だ。全体会案（令和 9 年 4 月に統合）の通りに決定した場合、今後は 2 年弱の間に、統合に向けた様々な検討事項を、地区の皆様と協議を重ねながら準備しなければならない。そのため、統合準備委員会は 3 つの部会に分かれて協議を進め、この総務部会では、学校名・校章・校歌、学校外の交流事業、閉校記念事業等について検討する。本日は、学校名と閉校記念事業について協議していただきたい。
3 委員自己紹介	
4 協議事項	
学校名について	
(1) 各委員からの意見発表	
＜部会長＞	■ 学校名については、これまで各地区で話し合ってきたと思う。これから統合に向けた具体的な検討に入っていくため、たくさんの方に想いを述べていただきたい。 ■ 意見のある方は、挙手をして 2 分程度で述べていただきたい。出された意見は、事務局がホワイトボードに記録していく。
＜委員意見＞	■ 日東中学校と東山口中学校が統合した際は、栄川中学校となった。学校名を変えることで様々なデメリットがあるかもしれないが、同じ栄川中学校区として栄川小学校にするのが良いのではないかな。 ■ 東山・日坂・東山口地域の総称として「栄川」がある。幼稚園も中学校も消防団も栄川という名称を使っている。栄川小学校にすれば皆さんが納得できるのではないかな。 ■ 学校名について自分の子どもに聞いたら、栄川小学校で良いのではないかと聞いていた。幼稚園も中学校も栄川という名称を使っているため、小学校の子ども達も栄川小学校になると思っているのではないかな。 ■ 新しく学校名を決めることで、子ども達が「新しい学校を作ろう」という気持ちになるのではないかな。

- 過去事例を見ると、統合時に学校名を変更していないことが多い。また、学校名を変更することで費用も労力もかかる。東山口地区としては、将来的に小中一貫校化されるのであれば、現時点で学校名を変えなくて良いのではないかと考えている。また、東山口小学校という名前を残すことも検討して欲しい。
- 現段階で小学校の学校名を変えていれば、小中一貫校化の際に手続き等が円滑にできるのか。
⇒統合の際に学校名を変更し、小中一貫校の整備の際に、その学校名をそのまま使用するのであれば、小中一貫校へ移行する際には、学校名変更に係る手続きは発生しない。
- 学校名の変更が要望書の第1希望という訳ではない。子ども達が新しいスタートを切るためにどうすれば良いか検討した結果、学校名を変更することが良いのではないかと考えた。「新しい学校をみんなでつくる」という、子ども達の視点を大切にしたい。学校名を変えることで様々な労力がかかるが、それは大人の都合ではないか。統合によって負担を負う子ども達のために、それなりの費用や労力をかけても良いのではないか。また、学校名は学区を表している。東山・日坂地区も含めた小学校区であることを踏まえると、学校名に地域の総称である「栄川」を使うのが良いのではないか。
- 子ども達のために、どこに労力や費用をかけるべきなのか考える必要がある。若い世代の意見をもっと聞きたい。
- 東山口地区は、学校名を変更したくないという意向なのか。
- 学校名を変更したくないという訳ではない。学校名を変更することで費用や労力がかかる。また、将来的に小中一貫校化されるのであれば、いずれ学校名を変える時が来る。現状を踏まえると、日坂小学校が東山口小学校に編入される形が望ましいと考えている。
- 東山口地区は、小中一貫校化の際に東山口小学校の名前を変更することに納得してくれるのか。
- 学校名は、小中一貫校化の際に改めて考える必要があると考えている。
- 東山・日坂地区としては、日坂小学校の名前を残さなくていいから、せめて学校名を変えて欲しいという要望だった。東山口地区としては、それよりも東山口小学校の名前を残したいということなのか。
- 残したいということではない。日坂小学校が東山口小学校に編入しても、大人が考えているほど子ども達の学びに影響はなく、偏見も無いと思う。
- それは違うのではないか。例えば、東山口小学校の校歌は、東山・日坂地区の地域に合わせたものではないはずだ。
- だから編入という形が望ましいと考えている。
- 10年後の小中一貫校化のことを考えるのではなく、今通っている子ども達のことを考えて欲しい。東山・日坂地区の栄川中学校の保護者の話を聞く機会があった。大人数の中学校に進学することで、環境に馴染めなかったり、上手に自分を出せなくなったりした子ども達の話もたくさん聞いた。大人の都合で統合するため、子ども達の混乱を減らしたい。私は、保護者として今通っている子ども達のために動いている。そのため、小中一貫校化や労力・費用を理由に検討されないことは悲しい。

- 東山口地区としては、学校名の変更にかかる労力や費用を子ども達のために使う方が、教育上良いのではないかと考えてきた。
- 各地区にそれぞれの文化や伝統がある。そこに暮らす子ども達が新しい学校をスタートさせる状況の中で、統合準備委員として最大限の労力を払い、具体的な協議を行っていくことが望ましいと考えている。
- それなりの労力を覚悟の上で統合準備委員を引き受けている。10年後の小中一貫校化を理由に学校名を議論されないのであれば、東山・日坂地区の想いが無くなってしまい、寂しく感じる。東山口地区の方も歩み寄ってほしい。
- 幼稚園から中学校を卒業するまで変わらない「栄川」という名前を作ってあげることで、子ども達の一体感が生まれるのではないか。子ども達のために大人が協力して取り組んだ姿を示すことも大切だと思う。また、労力を理由にやらないことは避けたい。将来的に変わる可能性があるなら、今の子ども達だけでなく、これから入ってくる子ども達のためにも、ずっと変わらない名前を残してあげたい。

(2) 校名を変更する場合のメリット・デメリットについて

学校名の変更に対する教育委員会の考え

- 統合業務において、学校側の負担を軽減させることが大きな課題だと考えている。現場の教職員は、通常業務に加えて交流事業や備品等の移管、教育課程の検討など、様々な統合業務を担っている。教職員の定員は県の基準で決められており、それ以上の加配は非常に難しい。その他のサポート人員の配置については、来年度の予算編成時に検討するが、予算の都合上、学校側の要望通りに人員を配置できるとは限らない。教職員の人数が限られている状況で、学校名の変更によって学校に負担をかけることが、本当に正しいことなのか考えていただきたい。もし学校側に余力があるのなら、子ども達のために力を注いでいただきたいと考えている。

資料説明：資料1 近隣市町における学校統合時の校名の扱いについて

- 掛川市と周辺自治体の過去事例を見ると、統合前の学校名を継承する傾向が強いことが分かる。

資料説明：資料2 学校名の変更により想定される影響

- 学校名変更の良い点として、子ども達や保護者、地域の方の想いを込められる点、統合に対する関心を高められる点が挙げられる。
- 費用面の課題として、校歌・校章の委託料の発生、学校備品の新調等が考えられる。保護者の負担として、体操服等の学用品の購入が挙げられる。
- 労力面の課題として、公募に係る事務作業がある。また、学校側の負担として、学校名の書かれている書類や事務用品、備品、掲示物等の更新が必要となる。学校備品は、備品シールを張って管理しているが、これをすべて張り替える必要がある（日坂小学校 1396 点、東山口小学校 1904 点）。
- 保護者の負担として、学校名・校歌・校章変更プロセスへの参加や学用品等の記名書き換えが考えられる。

＜委員意見＞

- 学校側の負担が大きいことは理解できるが、今の説明では、子ども達の視点がどこにあるのかわからない。日坂地区では、統合に向けた学校ボランティアを募集している。備品シールの張り替えなど、現段階で必要な作業がわかっているのであれば、学校や子ども達を支えていく方法を考えることも大切ではないのか。
- 備品シールを張り替えずにそのまま使うことは駄目なのか。

＜部会長＞

- これまでの話し合いを踏まえると、子ども達を中心に考えたいという意見が多かった。また、「学校名が子ども達にどのように関わるのか」「子ども達のために労力や費用をかけるべきだ」という意見も出てきた。学校名については、本日の話し合いで決定できないように感じるが、いかがか。

＜委員意見＞

- 学校名以外にも、校章や校歌など検討事項がたくさんあるが、統合の時点ですべてを決めておく必要があるのだろうか。校歌であれば、統合後に子ども達がお互いの校歌を教え合い、その中で新しい校歌を考えるといった、柔軟な発想があっても良いのではないのか。

⇒まずは学校名を検討していただきたい。校歌等については、子ども達や学校が良いのであれば、そのような柔軟性を持って決めても良いのではないのか。例えば、歌詞の一部をアレンジするなど、様々な方法が検討できると考えている。

- 地域には様々な人材がいる。そういった方々が協力すれば、事務的な負担を乗り越えられるのではないのか。子どもたちが豊かな教育を受けられる環境を整えた方が、地域も最大限協力してくれるのではないのか。財政が厳しいことは承知しているが、学校の負担軽減のために、教職員やサポーターの配置などに予算をかけて欲しい。
- さかがわ幼稚園の保護者や東山口小学校の PTA 会長の意見も聞きたい。
- 東山口小学校の保護者は、統合について十分に周知されていない。保護者の総意がまとまっている訳ではないため、PTA 代表として発言することが難しい。そのため、保護者から意見を聴収する時間が欲しい。
- 子ども達が中心だと言うが、具体的に何をするつもりなのか。学校名については、統合準備委員会や保護者が決めていくものではないのか。校歌や備品シールについて柔軟に決めるべきだという意見が出たが、子ども達が混乱するだけでないか。子ども達が同じ場所で一体感を持って学校生活を送る手立てを考える必要があるのではないのか。
- 会議資料を見ると、学校名の変更に否定的な内容に感じる。掛川市は、学校名を変更して欲しくないという立場なのか。

⇒学校名の変更については、慎重に議論していただきたい。学校側の負担を無視して議論することが正しいのか、子ども達のために労力をかけるべきではないか、という点を問題提起させていただいた。地域から支援をいただけるのであれば、それは大変ありがたい。

- 学校名を変えない方がスムーズに統合できると思う。ただし、労力がかかるという理由で変更しないことは寂しい。学校名を変えない場合でも「統合したらこんなに良いことがある」というポジティブな理由を見つけられたら良い。

- 日坂小学校の子ども達は、東山口小学校に通うことが分かっているため、学校名を変更しなくても良いように感じる。一方で、地域感情もあるため、日坂地区の住民としては複雑な想いを感じている。
- 高学年で統合を迎える日坂小学校の子ども達もいる。新しい環境になったときに、校歌を覚えられないまま卒業を迎えてしまうのではないかと、高学年として表に立って活躍したいと考えている子が遠慮してしまうのではないかと等、様々なことを考えてしまう。子ども達が、統合を新しい学校のスタートとして捉えることができれば、萎縮しないのではないかと。その上で、学校名が子ども達にとって分かりやすいのではないかと。入学時から一緒に仲間ではないからこそ、「一緒になったからこんなことしたね」と思い出に残るように、子ども達を巻き込んで新しい学校づくりができれば良いと考えている。
- 部会に参加させていただいて、統合に対して日坂・東山地区の方が熱い想いを持っていることや、統合のために多くの費用や労力がかかることを初めて知った。校歌を変更すると、子ども達が覚え直さなければならぬため、統合の過程で新しい校歌を検討していければ良いと感じた。

<部会長>

- 子ども達が統合を前向きに捉えられるようにするために、様々なアイデアが考えられるのではないかと感じながら司会を務めた。
- 学校現場は厳しい状況にあり、時間外労働をどのように減らしていくか考えなければならない現状がある。学校が行う統合業務は多いと感じているが、子ども達が幸せになれるように取り組みたいと考えている。
- 第2回の総務部会では、皆さんのアイデアで、全員が納得できる方向性を検討できれば良いと考えている。

(2) 閉校記念式典・閉校記念誌について

- 閉校記念式典・閉校記念誌については、小学校区ごとに検討していただきたい。また、各地区の検討結果を、総務部会で報告していただきたい。

<委員意見>

- 日坂・東山地区では、9月2日に事務局会議を行い、メンバーや方向性について検討を始める予定だ。

(3) 事務連絡

- 次回開催予定：8月 1日（金）19:00～ 日坂地域学習センター